

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校における社会科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。
（１）小学校学習指導要領（社会）の目指す理念や目標を理解することができる。（２）小学校学習指導要領（社会）の変遷と今求められている社会科の学力について理解することができる。（３）具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。（４）社会の出来事について関心を持つことができる。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校学習指導要領（社会）の変遷を概観し、現行の小学校学習指導要領（社会）に基づき、教育内容と指導法を考察する。教科の特性に応じた情報機器の有効な活用方法や教材研究の方法や学習指導法、評価方法の修得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

授業計画

- 1 社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
- 2 小学校学習指導要領社会の構成
- 3 小学校学習指導要領社会の内容
- 4 社会科教育の今日的課題
- 5 社会科の教材研究と授業の構想：資料の活用と教材化
- 6 社会科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
- 7 社会科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方、評価
- 8 地域学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（情報機器及び教材の活用を含む）（3、4年 身近な地域や市の様子 県の様子 生産や販売の仕事 安全を守る働き）
- 9 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事、地域の安全を守る働き）
- 10 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（市の様子の移り変わり、県の様子、県内の特色ある地域の様子）
- 11 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（人々の健康

や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き）

- 12 地理的、現代社会の仕組みや働き、歴史的学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（5、6年 国土の様子と国民生活、政治の働き、歴史的な事象、自然環境と国民生活との関連、世界と日本の役割）
- 13 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（国土の様子と国民生活、国土の自然環境と国民生活との関連、農業や水産業における食料生産）
- 14 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（工業生産、情報と産業との関わり、国土の自然環境と国民生活との関連）
- 15 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（政治の働き、グローバル化する世界と日本の役割、歴史上の主な事象）

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他

レポート提出（全3回）を求め、講義の中でフィードバックを行う。

『平常点50%、定期試験50%』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校で38年教員をする。（算数を専門的に研究し、神戸市算数研究会部長を務める）			

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法を習得する。教材研究、模擬授業を通して、子どもの主体的・対話的で深い学びを進めるための授業づくりの工夫や留意点を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

算数科の目標、内容、系統性、各領域の特徴を学ぶ。子供のつまずきやすい教材を取り上げ、具体的な指導法を現場での実践成果と絡めながらプレゼン、討議する。学校現場での45分授業の構成、指導案の書き方を学び、模擬授業も行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション ・ 算数科の目標（その趣旨及び要点）
- 2 算数科の内容と構成（領域と概観）
- 3 授業45分間の構成上の留意点
- 4 第1学年の目標及び内容
- 5 第2学年の目標及び内容
- 6 第3学年の目標及び内容
- 7 第4学年の目標及び内容
- 8 第5学年の目標及び内容
- 9 第6学年の目標及び内容
- 10 学習指導案の書き方（1）指導案を学ぶ
- 11 学習指導案（2）指導案を書く
- 12 低学年 模擬授業とふりかえり
- 13 中学年 模擬授業とふりかえり
- 14 高学年 模擬授業とふりかえり
- 15 算数科内容の取扱いままとめと考査

授業の方法

講義と指導法についてのディスカッション、さらに模擬授業、事後の討議などの活動を大切にしていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題 レポートの提出、学習指導案の提出、模擬授業を求め、講義の中でフィードバックを行う。

評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 文部科学省（H29.6）

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得する。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導のあり方について実践を通して学び、理科の授業作りの基礎を培うことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自立）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領（理科）の教科目標及び学年目標、指導のあり方を把握する。エネルギー、粒子、生命、地球を中心に具体的な内容を取り上げ、指導力、応用力を養う。さらに、情報機器及び教材の効果的な活用を理解した上で、指導案作成や模擬授業を通して、実践力を育成する。

授業計画

- 1 理科とは何か、小学校学習指導要領 理科の変遷
- 2 小学校学習指導要領 理科の構成
- 3 小学校学習指導要領 理科の内容
- 4 理科教育の今日的課題
- 5 理科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
- 6 理科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方
- 7 理科の教材研究と授業の構想：評価規準の考え方と実際の評価
- 8 教材研究と授業化に向けて：教材研究と学習指導案の作成（情報機器及び教材の活用を含む）（3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容から）
- 9 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（風とゴムの力の働き、光と音の性質、電流の働き、身の回りの生物、人の体のつくりと運動）
- 10 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（磁石の性質、空気と水の性質、太陽と地面の様子、季節と生物）
- 11 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（物の重さ、金属、水、空気と温度、雨水の行方と地面の様子、天気の様子、月と星）
- 12 教材研究と授業化に向けて：教材研究と学習指導案の作成（情報

機器及び教材の活用を含む）（5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容から）

- 13 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（振り子の運動、てこの規則性、植物の発芽、成長、結実、動物の誕生、人の体のつくりと働き）
- 14 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（電流がつくる磁力、電気の利用、流れる水の働きと土地の変化、植物の養分と水の通り道、生物と環境）
- 15 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（物の溶け方、燃焼の仕組み、水溶液の性質、天気の変化、土地のつくりと変化、月と太陽）

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め（全3回）、講義の中でフィードバックを行う。

『平常点50%、定期試験50%』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藤坂 裕子	選択	2	公立小学校教員。神戸市小学校教育研究会生活科部世話係長。			

授業の到達目標

- ・生活科誕生の背景や経緯について理解する。
- ・生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。
- ・学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。
- ・内容の組み合わせによる有効な単元活動や指導計画を探る。
- ・各内容を通して他教科や道徳との関連的な指導方法を理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その、誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる教科目標を踏まえ、内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション 「私が学んだ生活科」レポート
- 2 各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差
- 3 生活科誕生の背景・生活科とはどんな教科か
- 4 生活科の目標（生活科の抱える課題と新指導要領のねらい）
- 5 生活科の内容（内容構成と階層性）
- 6 生活科の内容分析
内容1 「学校と生活」
内容2 「家庭と生活」
内容3 「地域と生活」
内容4 「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える
内容5 「季節の変化と生活」
内容の関連付けの意義を知り年間計画を考える
- 10 内容6 「自然や物を使った遊び」身近な物での物作り体験
- 11 内容7 「動植物の飼育・栽培」
- 内容8 「生活や出来事との交流」
- 12 内容9 「自分の成長」「生活科の評価方法」
- 13 学習指導案づくり
内容6 物づくりの場面の展開を考える
- 14 模擬授業
- 15 テスト

授業の方法

テキストによる講義を行うとともに、ワークショップやディスカッションを織りまぜながら理解を深める。授業の初めは、身近な植物の観察「知っておきたい身近な植物」を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は2点減点し、遅刻は1点減点とする。

テキスト

レジュメを配布

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」